

エッセイ Essay



会長に就任して

公益財団法人豊橋市国際交流協会
会長 松井 孝悦

豊橋市国際交流協会は平成元年に財団法人として設立され、平成25年より公益財団法人に移行し、①国際交流・国際協力の活動の推進 ②多文化共生の地域づくりの推進 ③これら活動の推進役となる人材の育成と市民活動の支援 ④これらを推進するための情報提供 を主な事業として、公益性の高い事業を推進し、地域の国際化や国際意識の高揚、また諸外国との友好親善に努めて参りました。昨年度は協会設立25周年の節目を記念し、市民とともに記念式典ならびに豊橋特別ふるさと大使である喜多郎氏による記念講演会を開催いたしました。

現在、豊橋市には一時よりは減少したとはいえ77か国の約13,700人の諸外国籍の人が私たちと共に暮らしています。また、自動車の輸出入が全国一である三河港を中心に多くの外資系の企業がこの地域を拠点として企業活動を行っています。さらに留学生もこの地域の大学・高校に31か国、約200人が在学し、青春時代の貴重な時期をこの地域で過ごしています。豊橋技術科学大学が2014年度より文部科学省のスーパーグローバル大学創成支援事業でグローバル化を牽引する大学に採択されたこと、愛知大学が同じくグローバル人材育成支援事業(特色型)に採択されたことなどを鑑みると、留学生の数は今後ますます増えてくると思われます。

また、日本政府が「外国人旅行者訪日促進戦略」を掲げ、現在は「訪日旅行促進事業(ビジット・ジャパン事業)」が行われていること、また円安の影響もあり、諸外国からの来日観光客が急激に増えてきて

います。いわゆるインバウンドですが、この訪日外国人旅行者をいかに呼び込むかが各市町村の観光産業にとって大きなテーマになっています。この地域も外国人観光客に魅力のある街にするため、豊橋観光コンベンション協会、広域観光協議会などの諸団体と連携をとりながら、さらなる国際化の推進が必要であると考えます。

さらに、当協会は、数年後に予定されている『駅前大通2丁目再開発事業』の再開発エリアに所在しています。現在、豊橋市はここに「まちなか図書館」をつくることを計画し、「集う」「学ぶ」「交流する」「くつろぐ」「発見する」というキーワードのもと魅力的なサービスと空間の形成を目指して構想を練っているところです。国際交流協会はこの再開発の構想段階から積極的に関与することにより、国際交流を切り口とするさまざまな活動を通して、まちの中心市街地活性化の一翼を「国際交流」という切り口から貢献できる大きな可能性を持っていると考えます。

以上のような背景のもと、当協会の果たすべき役割はますます重要なものになってくると考えています。豊橋市はもとより、この地域にある関連諸団体(各大学、国際交流活動団体、東三河の各地の国際交流協会等)とより一層綿密に連携をとりながら、賛助会員をはじめ、国際交流ボランティアや多くの地域の皆様のご支援とご協力をいただき、この地域に根ざした、この地域らしい国際化を進めていきたいと考えています。皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。